

人々の暮らしを支える税

新宮市立城南中学校は22日、和歌山県教育庁紀南教育事務所社会教育主事兼指導主事の金澤亮さんを招き、各クラスで租税教室を実施した。3年生64人は配られた冊子の図表などを確認しながら税への理解を深めた。

授業の冒頭、金澤さんは「税といえはなんでしょう」と質問。奈良時代の税の名称「租・庸・調」から歴史を振り返り、消費税やふるさと納税について「どのような制度か知っていますか」と問いかけた。

続いて、北欧の高い税率などを紹介し、税のない世界を描いたDVD『アナザーワールド』を視聴。現在の日本の財政状況について確認し、「収入よりも支出が多くなっている、返済にあたり将来は税率が上がることが考えられます」と話した。

その後、少子高齢化による税収の減少について言及した。働き手が減少することで、国の税収が減少し、公共サービスが受けられず、サービスの質も落とさなければならぬ可能性があること。



金澤さん

年金は保険料と税収で払われているため、保険料が増える可能性があることを話した。

最後に、金澤さんは「税に関する法律と税の使い道について、国民の代表者である国会や地方議員が決めています。税の使われ方に関心を持ち、社会の一員として豊かで安心して暮らせる社会のために、私たちに何ができるのかを考えることが大切です」と呼びかけた。



熱心に聞き入る生徒

生熊拓巳くんは、「ビデオを見て、税の大切さを改めて感じた。自分やほかの人の幸せな暮らし

を支えていくために、きちんと収めないといけないと思った」と話した。

(香川真夕)